つるエネ通信

2023年
4月号

地域未来を巡る旅、陸前高田

「地域未来を巡る旅」シリーズ。今回は、2011年東日本大震災の被災地「陸前高田・気仙沼」を通して、日本の地域未来を考えてみたいと思います。

「地域未来」という言葉を聞くと、地方名産品を生み出したり、空き家を回収して素敵な古民家カフェを生み出したり、素敵な地域住民・コミュニティが生まれるといった「コト」や「モノ」を想像しますが、それと同等か、あるいはそれ以上に大事だと私たちが考える要素として「思い」があるような気がします。それを、このシリーズでは追っていきたいと思います。

今回の旅を通して思い返したのは、つるエネルギーという会社を作るに至った経緯をたどると、実は東日本大震災に対して僕たちはどう考えればよかったのだろうか、という問いの中に、何か大きなきっかけが存在したような気がするのです。だからこそ、今回の気仙沼・陸前高田への旅は、私にとっては原点回帰であったと思います。

さて、今回私たちに地域を見せてくれたのは、デロイトトーマツグループ／Just Do It!! 地域イニシアチブ 代表の「百瀬　旬」さん（右の写真）です。百瀬さんとの出会いは、あるイベントでご一緒したことがきっかけでした。そのときに、百瀬さんの語り口、お人柄が好きになってしまい、この人が向き合っている地域を、百瀬さんと同じ目線から少しでも見てみたいという思いから、今回の取材が始まりました。ここからは取材記という形で、時系列順に書いていきたいと思います。

陸前高田・気仙沼への訪問初日は、岩手県一ノ関駅で集合となりました。早速、陸前高田の方に移動するということで、車を走らせます。

しばらく運転していると、とても印象的だったことがあります。それは、道路が実に滑らかで、走りやすかったこと。

百瀬さん：この道を開通することにも多くの労力と時間がかかって、大型のダンプカーや工事車両が、被災地との往復をしていたんだよ。

この「道路が滑らか」という印象が、私にとっては被災地や復興という言葉のリアルな感触第一号だったかもしれません。道路が繋がったときの安堵、切なさ、希望といった様々な感情が、この道を往復していたのかと思うと、綺麗な道であっても、そこには切なさが存在するような気がしました。

次に、百瀬さんが復興支援のときに住んでいた場所をお見せいただけるということで、気仙沼を経由しました。向かったのは気仙沼市立気仙沼小中学校。ここのグラウンドに当時、仮設住宅があったということで、伺った当時は学校のグラウンドでした。普通の住宅にお住まいだったのかな、という先入観がここで打ち砕かれたことを覚えています。仮設住宅での色々なエピソードを伺うにあたり、今でもまだ、その場で感じたことを上手く言語化できないでいます。

次に、気仙沼を経由して、陸前高田に入りました。陸前高田は、前方を海とすると、右と左は広大な平地。後ろの方も段々と海抜から上がりながら、山を背にしている。2011年当時、陸前高田もまた大津波に呑まれ、私が訪れた場所もほぼすべて、津波の被害を受けました。

陸前高田は、高田松原が有名です。強い海風を防ぐために、先人が植えた松の木が、「高田松原」なのですが、大津波を経た後も奇跡的に残ったものとして、「奇跡の一本松」があります。遠くからでもはっきりと分かるその姿は、見る者に対して何かを伝えようとしてくれているように感じました。　次号に続きます。

気仙沼市安波山より内湾を望む、百瀬　旬さん

陸前高田の山側の現在（2023年撮影）

奇跡の一本松（2023年撮影）

発行 | 株式会社つるエネルギー　つるエネ通信部
〒402-0035 山梨県都留市夏狩1887番地 Mail: contact@tsuru-e.com
URL: https://tsuru-e.com